

# まちがいさがし クイズ

## 問題

左右の絵を見くらべて、  
まちがいを8カ所見つけてください。

### 応募方法

ハガキまたはファクスに、答え(右の絵に○をつける)と住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり7月号に掲載しますので、ご了承ください。

### 送り先

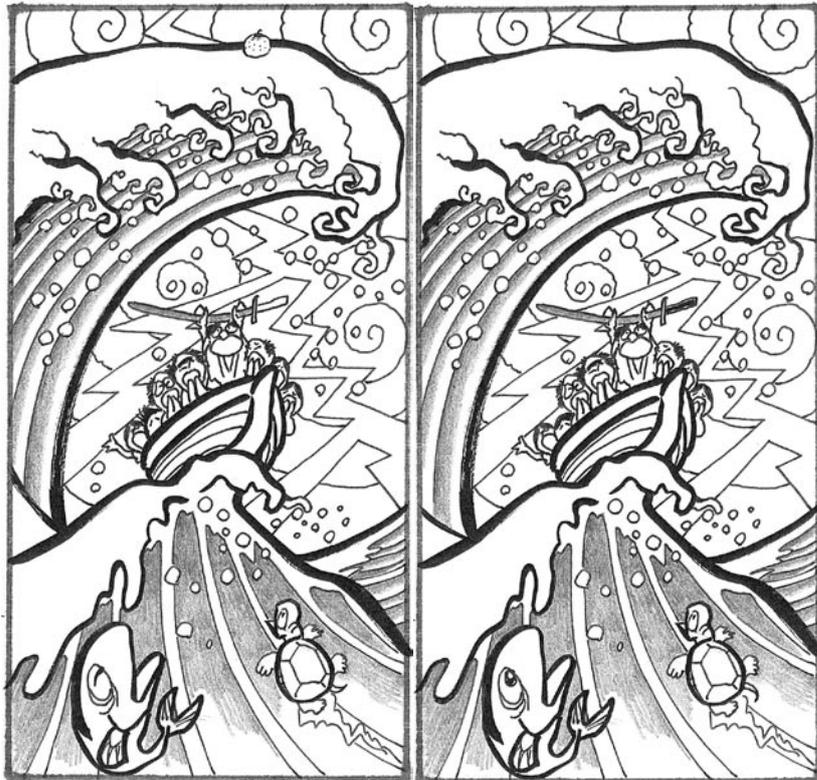
〒443-8601 旭町17番1号  
企画広報課「クイズ」係  
FAX66♦1190

### 応募締切

5月19日(水)当日消印有効

### プレゼント

全問正解された方のうち、抽選で10人の方にクオカードもしくはユトリーナバーデゾーン無料利用券をプレゼントします。なお、賞品は7月初旬ごろ郵送します。



## 「稲村が崎」(西浦町)

すつとむかし、吉見平九郎という侍がいた。兵九郎は新田義貞の家来だった。義貞は足利尊氏に負けて、越前の国で殺されてしまった。大将を失った平九郎はやつとのことで一族と共に西浦の地まで舟をこいで逃げてきた。西浦半島の沖あいにさしかかった時、突然辺りの空が暗くなり嵐になった。平九郎はじっと目をつむり静かに最期の時を迎えようとしていた。その時、ふと鎌倉攻めのことを思い出した。鎌倉の手前の稲村が崎という所まで来た時、急に海が荒れ義貞の軍勢は浜を渡ることができなかった。その時、義貞は黄金の太刀を海にささげ、海が荒れているのをおさえ、無事に浜を渡り鎌倉に攻めこむことができた。

平九郎はゆっくり目を開けた。(よし、私も自分の命と想っていたこの刀を海にささげよう。平九郎は自分の刀を帯からはずし、それを両手で頭上に高々と差し上げました。そして天をじっとにらんだ後「天の神よ。海の神よ。われらを助けてまえ。」といううなり海に自分の刀を投げ入れた。

すると、今まで空一面にたちこめていた暗い雲はたちまち消え去り、荒れ狂っていた大波はひたりとおさまった。平九郎たちは手を取りあって喜んだ。そして、無事西浦の地に足を踏み入れることができた。それ以来平九郎一族はこの地で平和に暮らした。平九郎が初めて足を踏み入れたところを稲村が崎と名づけ、後に海の神をまつるお社を建てた。このお社は海上安全のお社として敬われ、このお社のさきを通る帆船は必ず帆を下げて敬う気持ちを表すそうだ。

## ◆3月号の答え

3月号クイズまちがいさがし  
(じらいやと赤がえる)の答え  
応募総数97通  
正解者96人  
当選者 敬称略・50音順  
形原町 石川綾乃  
元町 伊藤 澄  
西迫町 王 艶秋  
三谷北通 大木皓資  
形原町 佐藤由実  
新井町 杉本寿枝  
三谷北通 平野有紀  
本町 藤原善四郎  
三谷町 牧原百佳  
水竹町 山田綾子  
おめでとうございませう。賞品は5月初旬に発送します。

